

# 半導体漫遊記

82

## 湯之上隆

大和証券コリアから依頼で、投資家相手に、「半導体産業の将来展望」のタイトルで、韓国3回、日本1回、香港3回、シンガポール3回、合計10回の講演を行った。

この東南アジア講演ツアーが行われるに至った経緯は以下の通りである。2012年12月に、私にとって第2作目の著作『電機半導体大崩壊の教訓』を日本文芸社から上梓した。出版から1カ月後、韓国の半導体メーカーSKHynixの日本駐在員から接触があり、「大変面白い内容だ、私がハングル語に訳すから、この本を

### 韓国や香港などで10回講演

## 「ルネサス復活、夢でない」

まず、3月13日から1泊2日で韓国に渡航した。ちょうどこの日に、東芝の半導体技術がSKHynixに漏えいし、それに関わった日本人技術者が逮捕される事件が起きた。日本のテレビ局、新聞社、雑誌社から、「コ

には無事韓国で出版された。幸いこの本は、韓国でも半導体産業関係者によく売れたらしい。そして、大和証券コリアのダイレクターが手に取り、一読して良い印象を持ったことか

まず、3月13日から1泊2日で韓国に渡航した。ちょうどこの日に、東芝の半導体技術がSKHynixに漏えいし、それに関わった日本人技術者が逮捕される事件が起きた。日本のテレビ局、新聞社、雑誌社から、「コメントが欲しい」と国際電話による取材攻勢に遭いながら、3回の講演を行った。その翌週の3月18日には、日本の大和証券で講演した。上記4回の講演では、現在スマホが半導体産業をけん引していること、その半導体の

微細化にはダブルパターニング(DP)という手法が使われていること、製造装置メーカーの米アプライドマテリアルズと東京エレクトロンが統合したのはPCを行う装置群を制御することに狙いがあること、などについて論

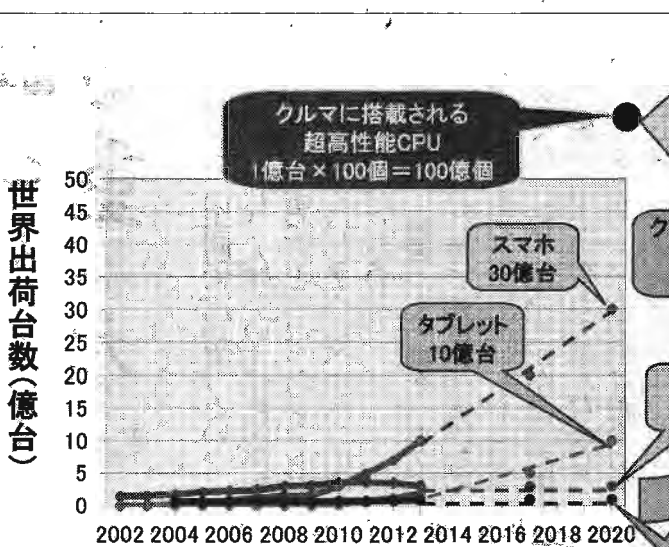
の品質DRAMを作るに続けたために日本が凋落したことを、PC用DRAMを低コストで大量生産して日本を撤退に追い込んだ韓国はPCからスマホへのパ

そして、日本半導体産業の復活の可能性について以下のように言及した。20年に、スマホ30億台、タブレット10億台、PC3億台、クルマ1億台

また、4月6日から5泊6日の日程で、香港とシンガポールを訪れ、それぞれ、3回ずつ講演を行った。この講演では、コンピューター業界がメインフレームからPCへパラダイムシフトしているにもかかわらず25年保証

台当たり100個もの超高性能プロセッサの需要が生まれることになる。すると、クルマ産業全体で、1億台×ニクスは経営不振に陥っているが、車載半導体では世界シェア1位(42%)を占めている。もしルネサスが、自動運転車用の超高性能プロセッサにおいて獲得できなかったら、復活も夢ではないか?

海外の投資家たちの反応は、半信半疑と言ったところだった。ぜひともルネサスの奮起を期待したい。そして海外の投資家たちに「ぎゃふん」と言わせてほしいものだ。(微細加工研究所・所長)



クルマがムーアの法則を牽引する?

海外の投資家たちの反応は、半信半疑と言ったところだった。ぜひともルネサスの奮起を期待したい。そして海外の投資家たちに「ぎゃふん」と言わせてほしいものだ。(微細加工研究所・所長)